長崎 NAGASAKI ながさき 人 になろう

# 長崎市で見つけた わたしたちの「最高の暮らし」

暮らし方や働き方が多様化し、その分、住む場所の自由度も上がってきた現在。
オンラインワークやコリビングスペースなどを活用して、
長崎市で新しい暮らしを発見したお二人に、その住みごこちを伺いました。

文・深水央　写真・内藤正美

## 長崎の穏やかな時間に活力をもらっています

（左上）下濵さんが暮らす長崎市東長崎エリア。中心市街地から離れ、滴るような緑があふれる　（左中）庭で育てたきゅうりを手に。手作り野菜の交換で、地元の人たちとの交流が深まる　（左下）築50年以上の民家をDIYでリノベーション中。壁紙やドアの工夫でオシャレな仕上がり

### 下濵さくら さん

「東京やロサンゼルスって、そこにいるだけで自然と『全力で走り続けなきゃ！』という気持ちになるまち。わたし、長崎に帰ってきて初めて『そうじゃない時間の過ごし方がある』って気が付きました」

まるで「エネルギッシュ」という言葉が服を着ているような、パワーあふれる下濵さくらさん。学生時代にはチアダンスに打ち込み、現在はアメリカ・ロサンゼルスにあるスポーツコーディネートを行う企業に所属。クライアントの案内や視察でアメリカ国内を飛びまわる多忙な日々を送っていました。

その下濵さんに急ブレーキをかけたのは、コロナ禍でした。２０２０年２月、ビザの更新で帰国していた下濵さんは予想外の長い足止めを受けることに。これを期に、生まれ育った長崎に移住することになりました。

「最初は仕事が完全に止まってしまい、不安もありました。でも『せっかく日本にいるならここでしかできない経験を積もう』と気持ちを切り替えて。今は会社の仕事に加えて、家族がやっている不動産業、そして今年地元に誕生したBリーグ・長崎ヴェルカのチアダンスチームでマネージャーを務めています。ゼロからの立ち上げだから、もう大変なんですよ！」

そんな下濵さんは今、オンラインを活用した新しい働き方をスタートさせています。

「オンラインミーティングと時差で、仕事のやり方が変わりました。アメリカ西海岸との時差は16時間。ちょうど日本の朝の時間帯がアメリカの終業時間に当たるんです。そこで毎日オンラインミーティングをして、業務の引き継ぎや申し送りをしています。この時差のおかげで、仕事の効率がすごく上がりました」

日々の忙しさは以前と変わりませんが、大きく変わったことがひとつ。それが、長崎というまちに流れる時間の穏やかさ。

「10年以上住む人がいなかった一戸建てを買って、DIYのリノベーションを楽しみながら暮らしています。庭で育てた野菜を近所のおばあちゃんにお裾分けしたら、お礼にって桃をもらったりして（笑）」

コロナ禍が終息すれば、またアメリカと行き来する日々が始まります。でも、下濵さんはこの穏やかな時間を大切にするために、長崎とロサンゼルスとの二拠点居住を考えています。

「長崎での暮らしを通じて、これまで仕事とプライベートのバランスが仕事の方に偏ってたことに、初めて気付きました。朝から洗濯物を干したり、ゆっくりお風呂に入ったり、野菜に水やりしたりすることが、人生に潤いを与えてくれる。移住や二拠点生活を考えている方は、まずその感覚を体験してみてほしいですね」

（左上）軒先に腰をかけ、長崎の風景を眺めてひと息。時を告げる鐘の音に癒やされる　（左中）品川さんが管理を務めるHafH Nagasaki Gardenには、全国からリモートワーカーが訪れる　（左下）HafH Nagasaki Gardenは長崎市西山エリアの斜面地にあるコリビングスペース。長崎の市街地を一望できる

## 長崎は、ポテンシャルにあふれた「銀河系で一番」のまち

### 品川正之介 さん

「長崎に出会ったのは、大学生時代の国際交流サークルでした。外国から学生を招いて長期滞在してもらうプログラムの目的地が、長崎だったんです。外国から来る学生たちは、日本のことも長崎のこともよく知らない。迎える側として、長崎の歴史から何から、『とにかくしっかり勉強しなくちゃ』となりました」

品川正之介さんは横浜出身。それまで、長崎には旅行に来たこともなかったとか。長崎の第一印象は「坂、斜面」。しかしそこから始まる学びのなかで、品川さんは長崎の歴史と文化、多文化の共生に心を惹かれていきます。

「もともと国際交流に興味があったところに、さまざまな形の国際交流を積み重ねてきた長崎のまちのあり方が、自分にカチッと合った気がしました。異文化交流が当たり前になった現代だからこそ、改めて長崎の良さが見えてくる」

人生で一度は、このまちに住んで、その魅力を深掘りしてみたい。そんな思いが、２０２０年の長崎移住につながりました。現在は、長崎の観光・移住情報を発信するYouTubeの運営やコリビングスペース「HafH Nagasaki Garden」の管理人などをしています。

「長崎は、まちがコンパクトにまとまっていて、お店も結構充実しているので、生活していく上で困ることはまったくありません。強いて挙げるとすれば、タイ料理屋さんがないことぐらいかな」と笑う品川さん。むしろ、「こんないいところがあるなら早く知りたかった！」と言いたくなるような長崎の魅力に、移住してからたくさん出会ったといいます。

「五感のすべてが心地いいんですよ。まず視覚、斜面のまちなので縦方向に空間が広い。聴覚は、教会やお寺の鐘の音、船の汽笛の音が生活に溶け込んでいる。それに、斜面地を上がってくると車が少ないので、静かなんです。嗅覚は、秋のキンモクセイの香りが印象的。触覚は斜面を吹く風の肌触り、味覚はもちろん食べ物がおいしいところ。これは、住んでみないと実感できないことでした」

長崎には「ポテンシャルしかない」と話す品川さん。

「長崎市は人口の減少が進んでいて、『人口の流出をどう止めるか』が課題の一つと言われていますが、逆の側面から見てみれば、『日本で一番、地元民が日本や世界中に飛び出して多彩な経験を積んでいる』と言えます。なので、一度は長崎を出た人が戻ってきたり、自分のような移住者が増えたりしていけば、長崎はこれからもっと面白くなると思います。自分は長崎が大好きで『銀河系で一番面白い』と思っているのですが、まずは僕自身が楽しんでいる姿など積極的に発信していくことで、少しでも多くの人に長崎の魅力を届けられれば嬉しいなと思います」

長崎市移住相談窓口

## ながさき移住ウェルカムプラザ

専任の相談員が「仕事」「住まい」「子育て」など
移住に関する相談にワンストップでサポートしています

ながさき人になろう　検索

フリーダイヤル
0120-301-801
相談時間 9：00～ 17：00
※土・日・祝日も開所しています（12月29日～ 1月3日を除く）
※事前にご予約いただければオンラインでの相談もできます

メール
welcome_plaza@city.nagasaki.lg.jp

ホームページ
https://nagasakijin.com

E-mailアドレス　ホームページ　長崎市インスタグラム